

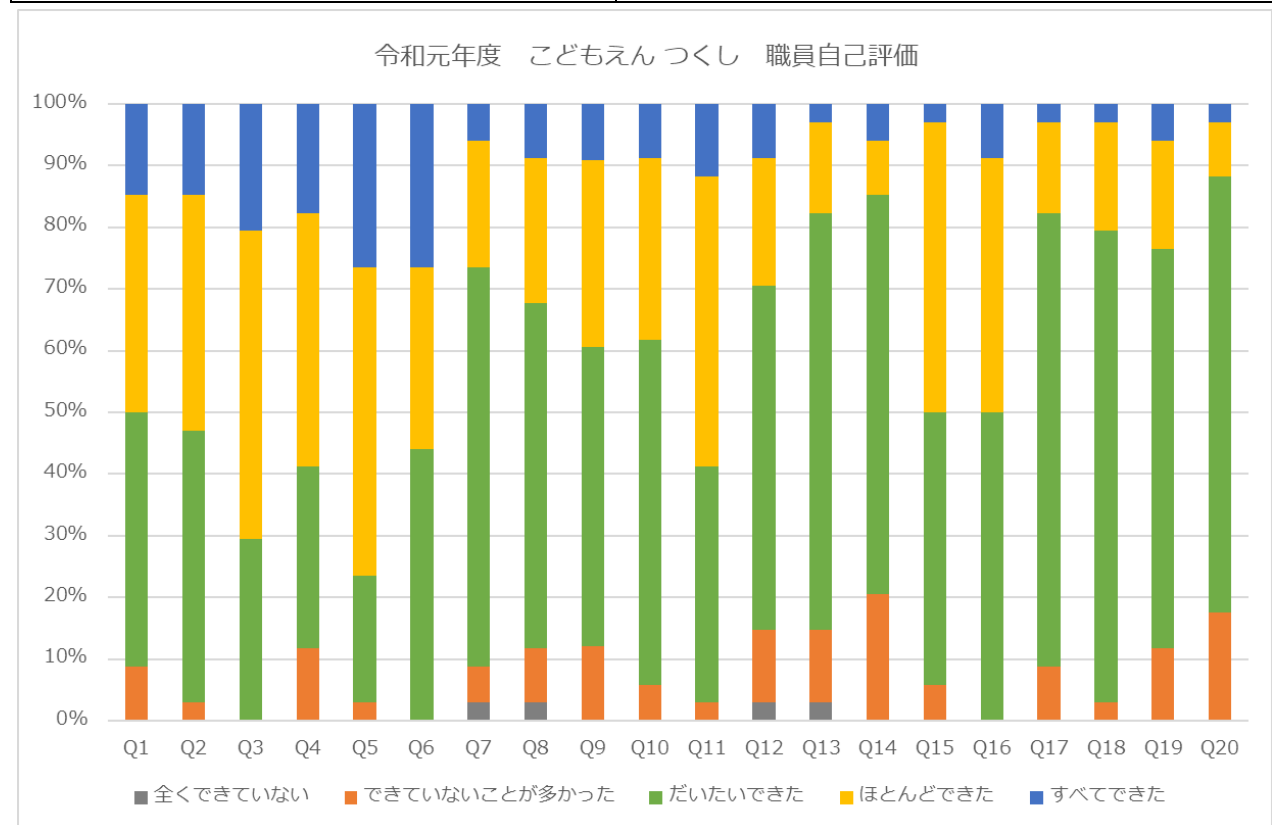
社会福祉法人つくし会 幼保連携型認定こども園 こどもえん つくし 2019年度 自己評価

1. 本園の教育・保育目標

1. 健康な子ども	2. 自分のことは自分でできる子ども
3. 豊かな感情と創造力をもつ子ども	4. 自分で考えて行動する子ども
5. 人、もの、自分を大切にできる子ども	
0歳児	生活欲求を満たし生活リズムをつかむ 温かな雰囲気をつくり、五感を育む
1歳児	いろいろな世界に興味をもち活発になる 姿勢運動・みたて遊び・身振り活動
2歳児	行動範囲が広がり探索活動がさかんになる 象徴機能・みたてつもりを楽しむ
3歳児	保育教諭や友だちとしっかり関わって遊ぶ中で自分の伝えたいことや思いを言葉や行動で表現できる
4歳児	友だちとの繋がりを広げ、感情も豊かになる 豊かな感性を育む
5歳児	集団活動の中で意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう

2. 職員の自己評価

職員自己評価項目 「1. 全くできていない」～「5. すべてできた」の5段階にて評価	
Q1 あいさつ・電話・来客応対ができる	Q11 自分の職務に積極的に取り組むことができる
Q2 言葉づかいに気を付け、常に笑顔を心がける	Q12 職務遂行に積極的に担当以外の業務にも進んで取り組むことができる
Q3 仕事に適した身だしなみに注意している	Q13 職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる
Q4 自己の健康管理ができる	Q14 自己研鑽を積むことができる
Q5 職種や園の信用をなくす行為、発言をしない	Q15 職員間で連絡体制が確立されている
Q6 上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる	Q16 職員間で協調性や信頼感がある
Q7 保育所における2つの保護者支援について理解している	Q17 後輩に適切な助言や的確なフォローができる
Q8 保育所における保護者に対する支援の基本を理解している	Q18 他人の心情・立場を理解し、物事を判断し援助できる
Q9 入所児の保護者との相互理解に努めている	Q19 保育事業などに関心を持っている
Q10 公平に人の話を聞いたり、話をしたり、正確に伝達できる	Q20 福祉サービスの多様化に関心を持っている



回答者：こどもえん つくし職員 34名 (女性34名、平均年齢41.2歳)

結果

できた点・・・「職種や園の信用をなくす行為、発言をしない」「上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる」「仕事に適した身だしなみに注意している」

できなかった点・・・「職務執行に積極的に担当以外の業務にも進んで取り組むことができる」、「保育所における保護者に対する支援の基本を理解している」「職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる」

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教育・保育目標と内容	全職員で教育・保育目標を周知し、各年齢チーム職員間で内容を共通理解のもと指導計画を作成し実践した。
2. 職員の資質向上	園外研修 ：職員の資質向上のため、さまざまな分野の研修に参加した(救命講習、安全対策、保幼小接続、発達支援など)。 園内研修 ：青野篤子先生をファシリテーターとして迎え、園内研修(保育部会・給食部会)を充実させた。意見交換、みちのうえこども園との交流、グループワークを通して、課題に対して当事者意識を持ち、主体的に学ぶことができた。
3. 保健・安全指導・特別支援教育	衛生管理 ：看護師が中心となり、感染症予防研修や嘔吐処理研修を園内で実施した。また、感染症が流行し始める時季には、おもちゃなどの洗浄・消毒を特に心掛けた。新型コロナウイルス感染症の流行に対しては、これまで以上に細やかな健康観察を実施し、家庭との連携に努めた。 特別支援教育 ：在園児が利用・通園している専門機関や外部施設等と情報交換を行い連携を深めた。また、それぞれの児について経過を追い、ケース会議にて職員間で情報共有をした。
4. 保護者との連携・情報	保護者との信頼関係の構築 ：家庭での様子、園での様子を保護者と担当が伝え合い、保育・教育に活かすよう努めた。 保護者連絡・園情報の発信 ：天候の影響で園行事の中止を決定した時など急な変更があった場合に、メール配信で連絡することにより保護者に速やかに周知することができた。
5. 幼保小連携・地域交流	保幼小連携 ：保幼小連絡協議会に参加し、近隣の幼稚園・保育所・小学校とともにスタートカリキュラムを計画・実施した。 地域交流 ：地域の福祉施設等が開催する行事に年長児が参加し、歌や和太鼓、踊りを通して交流を深めた。
6. 運営管理	連絡会議 ：週に一度のクラス代表者会議を行い、各クラスの状況や事務連絡など情報共有を図った。 教育・保育の無償化 ：2019年10月の教育・保育の無償化に伴い、給食副食費が自園徴収となった。園則と重要事項説明書を変更し、保護者にお便りで通知したが、混乱なく移行することができた。

4. 今後取り組むべき課題

	課題	取り組み内容
教育・保育	5領域に重点を置く	5領域のねらい・内容を理解し、それぞれの計画に組み込み保育に取り入れる
	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に重点を置く	・幼児の学びや発達への理解を深める ・10の姿を基に、5歳児修了時の姿について小学校と共通理解を図り、より滑らかな接続を目指す ・10の姿は「到達すべき目標」ではなく「育つ方向性」と考えること
	週案の内容の見直し	運動会や発表会等行事がある月は特に週案の内容に偏りが無いよう計画を立てる

社会福祉法人つくし会 幼保連携型認定こども園 みちのうえ こども園 2019年度 自己評価

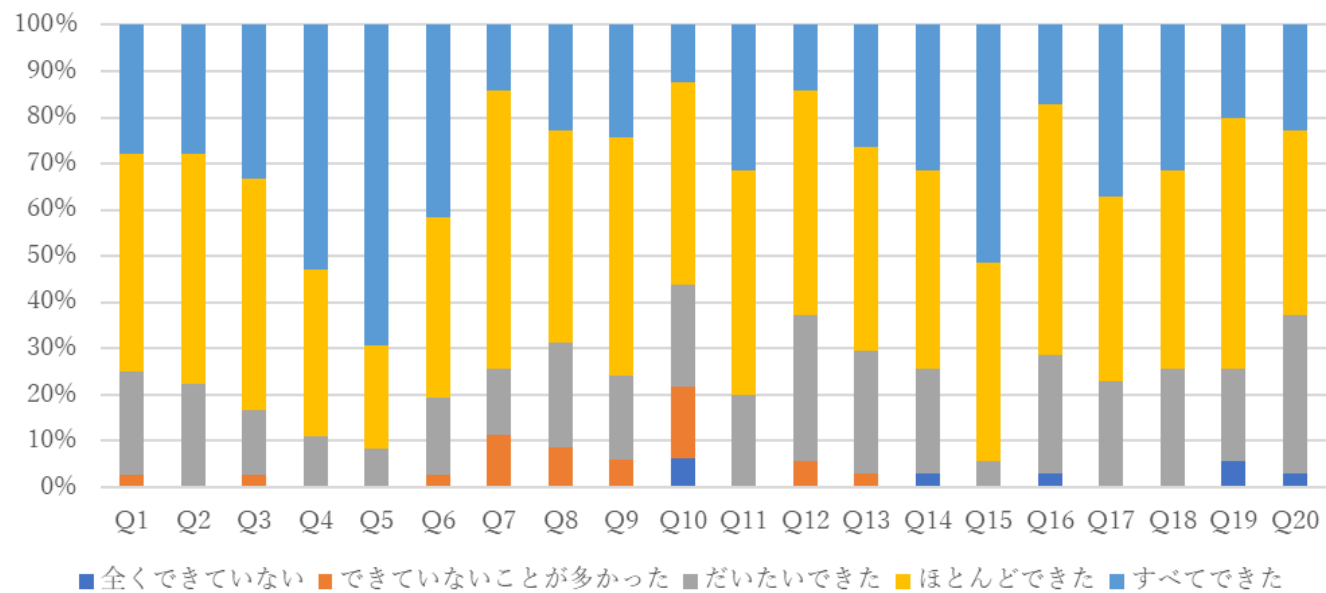
1. 本園の教育・保育目標

1. 健康な子ども	2. 自分のことは自分でできる子ども
3. 豊かな感情と創造力をもつ子ども	4. 自分で考えて行動する子ども
5. 人、もの、自分を大切にできる子ども	
0歳児	生活欲求を満たし生活リズムをつかむ 温かな雰囲気をつくり、五感を育む
1歳児	いろいろな世界に興味をもち活発になる 姿勢運動・みたて遊び・身振り活動
2歳児	行動範囲が広がり探索活動がさかんになる 象徴機能・みたてつもりを楽しむ
3歳児	保育教諭や友だちとしっかり関わって遊ぶ中で自分の伝えたいことや思いを言葉や行動で表現できる
4歳児	友だちとの繋がりを広げ、感情も豊かになる 豊かな感性を育む
5歳児	集団活動の中で意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう

2. 職員の自己評価

職員自己評価項目 「1. 全くできていない」～「5. すべてできた」の5段階にて評価	
Q1 当園の目標・基本理念を理解している	Q11 新しい考え方や方法を、前向き・積極的に受け止める姿勢を持てる
Q2 あいさつ・電話・来客対応ができる	Q12 園児の保育環境の向上を意識し、積極的に提言している
Q3 言葉遣いに気を付け、常に笑顔を中心掛ける	Q13 災害が起きた時や、不審者対応を理解している
Q4 仕事に適した服装・髪型・髪色等、身だしなみに注意している	Q14 保護者の子育てに共感し、支援できるよう配慮している
Q5 職種や法人の信用を無くす行為、発言をしない	Q15 個人情報の管理・伝達の際配慮している
Q6 自分の職務に積極的に取り組むことができる	Q16 子どもが主体的に関わりたくなるような、安全に配慮した環境構成を意識している（遊具や玩具の素材等）
Q7 自己研鑽を積むことができる	Q17 子供に対し、必要以上に禁止・命令等、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉遣いや態度にならないよう心掛けている
Q8 各年齢・チーム職員間で共通理解ができた	Q18 教材・教具の管理・点検及び園内外の清掃・整頓を実行している
Q9 職員間で連絡体制が確立されている	Q19 保護者別のニーズを理解し、子育てや就労を支えるための配慮を
Q10 後輩に適切な助言や的確なフォローができる	Q20 子どもが自主的に遊びや活動を深めていくために助言・助力している

2019年度 みちのうえ こども園 自己評価



回答者：みちのうえ こども園職員37名（女性36名、男性1名、平均年齢40.2歳）

結果

できた点・・・「仕事に適した服装・髪型・身だしなみに注意している」「個人情報の管理・伝達の際配慮している」「職員間で連絡体制が確立されている」

できなかった点・・・「自己研鑽をつむことができる（パート職員）」「園児の保育環境の向上を意識し、積極的に提言している」「後輩に適切な助言や的確なフォローができる」

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 保育教育・保育環境と内容	園児一人一人を受容し理解を深めて働きかけや援助し、自発的に活動できる環境の工夫を行なう。
2. 職員の資質向上	専門家としての能力の向上と自己研鑽のため、教育・保育実践、障がい児保育、救急対応、アレルギー対応、子育て支援、労務管理など様々な分野の研修に参加した。
3. 衛生・安全指導・危機管理	衛生管理：食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づいて適切に実施した（年に3回）。 安全管理：遊具点検・避難訓練は担当がそれぞれ月に一度行った。また事故（電車や災害）など身近にあった出来事を書面にし、研修を行なった。 危機管理：毎月担当職員を中心に研修を行い、大きな事故やケガはなかった。
4. 保護者との連携・情報	保護者との信頼関係の構築：家庭での様子、園での様子を保護者と担当が伝え合い、保育・教育に活かすよう努めた。 保護者連絡・園情報の発信：、日々のお便りや掲示に加え重ねてお知らせができ、かつ緊急の連絡（地震の後の報告、雨天による遠足の中止など）もスムーズにできた。 子育て支援：一時預かり保育の利用が前年度を大幅に上回り、年々ニーズが高まっていることを実感した。
5. 幼保小連携・地域交流	小学校への接続：近隣小学校等と計画に取り組んでいる。 地域との交流：地域の福祉施設等が開催する行事に年長児が参加し、歌や和太鼓、踊りを通して交流を深めた。
6. 運営管理	週に一度の代表者会議を設け、クラスの状況や行事の計画、保健衛生、最新の情報等について情報共有をすることに努めた。

4. 今後取り組むべき課題

	課題	取り組み内容
職員	改善すべき点などの気づきを積極的に提案する（充実した職員会議）	
	熟達者による新任者へのフォロー	
教育・保育	カリキュラム・マネジメントに重点を置く	「計画は子どもの実態に合わせて常に見直し改善する」「記録を振り返り実際に行うことができているかを吟味する」という視点を持つ（PDCAサイクル）
	アクティブ・ラーニングについての理解を深め、教育・保育に取り入れる	子どもの主体的・対話的で深い学びを促すための関わり方、環境構成、教材の用意などの工夫
	在園時間の違いに対する配慮	1号認定児童などが、在園時間・登園日数が少ないために不利益を被ることがないように努める（教育・保育計画、行事計画など）